

令和3年度 さいたま市外部評価委員会（第2回）

次第

日時 令和3年7月27日（火）

9時30分～

場所 ときわ会館 5階 501会議室

1 開会

2 議題

(1) 委員長報告

(2) 事業に関する意見交換

（教育・文化・スポーツ②）女子スポーツ支援事業

(3) 事業群に関する意見交換

健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現

3 閉会

〔 配付資料 〕

資料1 さいたま市外部評価委員会委員名簿

資料2 さいたま市外部評価委員会 第2回 席次表

資料3 「(教育・文化・スポーツ②) 女子スポーツ支援事業」に関する資料

資料3の内容

－1 事業の説明シート

－2 事業評価シート

－3 意見出し用ワークシート

令和3年度 さいたま市外部評価委員会 委員名簿

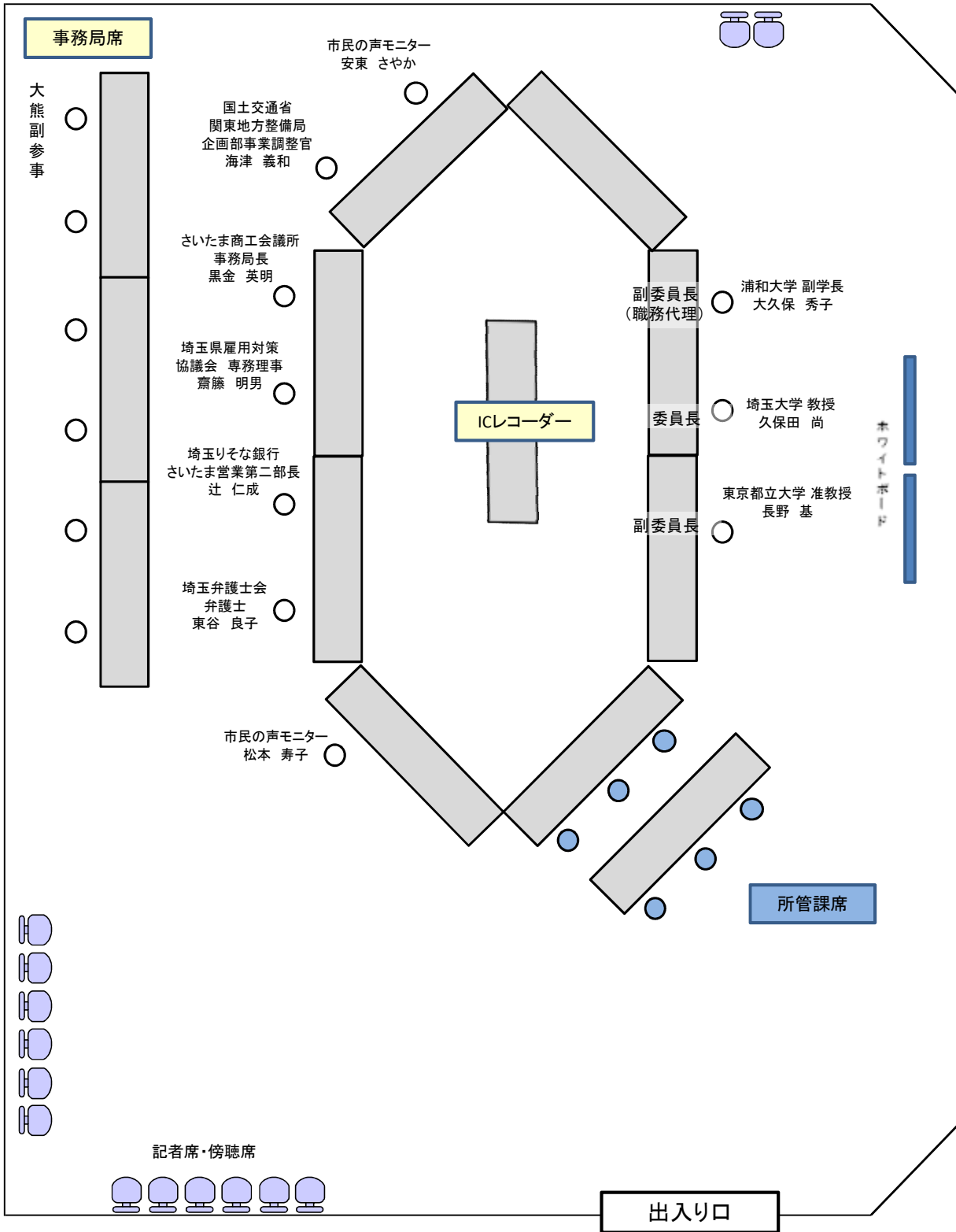
(敬称略、五十音順)

役職	氏名	団体名・職等
	安東 さやか	市民の声モニター
副委員長 兼 委員長職務代理	大久保 秀子	浦和大学副学長
	海津 義和	国土交通省関東地方整備局企画部事業調整官
委員長	久保田 尚	埼玉大学教授
	黒金 英明	さいたま商工会議所理事・事務局長
	齋藤 明男	埼玉県雇用対策協議会専務理事
	辻 仁成	株式会社埼玉りそな銀行さいたま営業部営業第二部長
副委員長	長野 基	東京都立大学准教授
	東谷 良子	埼玉弁護士会弁護士
	松本 寿子	市民の声モニター
	山本 智	日本放送協会さいたま放送局放送部長

御欠席

令和3年度さいたま市外部評価委員会 第2回 席次表

資料 2



1 事業概要 (背景・目的・事業費)

〔背景〕

○平成23年のスポーツ基本法施行に先行し、本市では、市民等の心身の健全な発達、明るく豊かな市民生活の形成及び活力ある市の実現に寄与することを目的に、平成22年に「スポーツ振興まちづくり条例」を制定した。条例において、全ての市民等が「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツにかかわることができる機会を増やし、並びに市の広範な分野において市民等、スポーツ関連団体、事業者及び行政が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進し、健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指すことを定めた。

○スポーツ庁の全国調査において、女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、中学生の女子の約20%が「スポーツが嫌い」「やや嫌い」と答えている。また、20代~40代の女性のスポーツ実施率は特に低く、スポーツ指導者やスポーツ団体における女性役員の割合も低い水準にとどまっており、スポーツの様々な側面で女性の活躍や女性の参画の拡大が期待されている。

○男性よりも女性のほうが「スポーツが盛んなまち」というイメージを持つ市民が少ない。

〔目的〕

○スポーツ関連団体、スポーツ事業者等と連携し、中学生年代を中心に女子スポーツの競技力向上に資する事業を実施し、女子スポーツの普及を推進することにより、本市のスポーツ振興及びスポーツに関する市民意識の醸成を図る。

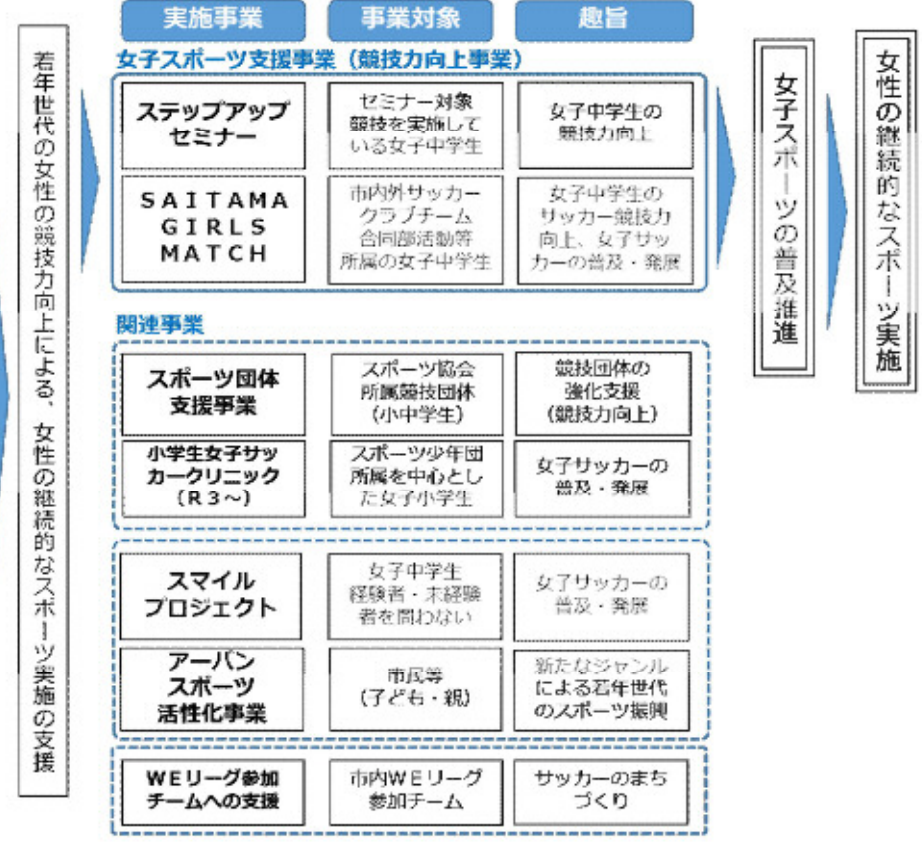
〔事業費〕

Table with 3 columns: 事業名, R2年度, R1年度. Rows include ステップアップセミナー and SAITAMA GIRLS MATCH.

2 事業イメージ

現状の課題
○中学生女子の約20%が「スポーツが嫌い」「やや嫌い」と答えている
○全国的に20代~40代の女性のスポーツ実施率が特に低い
合計/週1回以上のスポーツ実施率

○スポーツの盛んなまちとイメージする市民の割合は女性の方が低い
スポーツの盛んなまちとイメージする市民の割合



3 具体的な事業内容

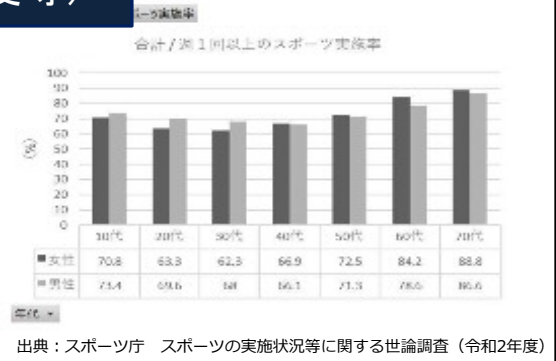
○市内のスポーツ事業者等(市内プロ・アマトップスポーツチーム等)と連携し、選手・コーチ等から直接指導を受けられる機会として、市内女子中学生等を対象に「ステップアップセミナー」を開催
○さいたま市サッカーのまちづくり推進協議会を主体とし、市内外のクラブチーム・中学校部活動・合同部活動チームの参加する女子中学生年代のサッカー大会「SAITAMA GIRLS MATCH」を開催

4 事業の結果

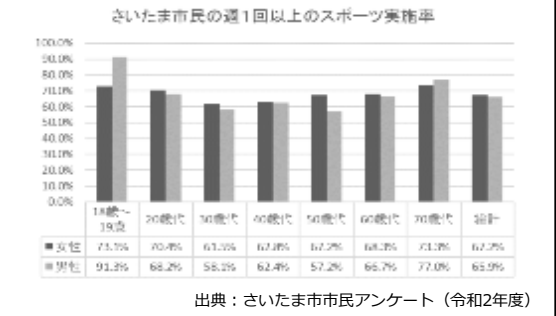
Table with 3 columns: 事業名, R2年度, R1年度. Rows include ステップアップセミナー and SAITAMA GIRLS MATCH.

5 内部評価 (成果指標への有効性・貢献度等)

〔有効性・貢献度〕
○中学生年代の女子にアプローチする施策は、女性のスポーツ実施率向上や「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合の向上に、長期的な視点で効果があると考えます。また、プロアスリート・スタッフ等との交流や指導を受けることにより、将来的なスポーツ業界への参画の動機づけとしての効果もあると考えます。



〔事業の執行過程で判明した課題〕
○ステップアップセミナーについて、市が直接提供できる機会に限りがあり、受講側からみて単発の機会にとどまってしまう。また、事業開始の経緯は異なるが、類似する関連事業が開始された。
○SAITAMA GIRLS MATCHについて、直近で開始された女子サッカー関連事業と一体感を持った施策とする必要が生じた。
○直近の調査を分析した結果、市内在住者のスポーツ実施率は、30代~40代が低い傾向は全国と変わらないが、同世代の男女差は少ないことが分かった。なお、全国的にも、若年世代の男女のスポーツ実施率の差は縮小している。



6 今後の方向性

○ステップアップセミナーは令和2年度末で終了し、競技力向上については、より高い効果が見込まれる「スポーツ団体支援事業」「小学生女子サッカークリニック」を中心に実施する。
○SAITAMA GIRLS MATCHは、女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」の発足に伴い、市内に女子プロサッカーチームが2チーム擁立したことを契機とし、両チームと連携し、大会価値をより高め、その他の女子サッカー関連事業と一体感を持った施策とする。
○現状のスポーツ実施率の傾向を踏まえ、スポーツ実施率が最も低く、家庭や仕事等で忙しく、スポーツを実施する時間が取りにくい世代でもある30~40代に寄与するような、世代別のアプローチを検討、実施していく。
(例) 親子が身近で手軽にスポーツを体験できるアーバンスポーツを普及促進し、新たなスポーツ実施層を獲得
(例) 時間のない働き手世代にとって負担感のないスポーツやフィジカルケアを実施
(例) 雰囲気、ファッションといったスポーツ以外の付加価値の提供による参加意欲を向上
○世代別アプローチに加え、男女の身体的特徴の差に着目したアプローチとして、特に若年世代の女性の健康課題に着目したスポーツ促進策を検討し、女性のスポーツ実施率の維持・更なる向上を目指す。
(例) 月経や骨粗しょう症などの女性特有の課題に対するサポートプログラムを実施

※新計画(令和3年度~)では、当該事業を個別に位置付けていないが、「サッカーのまちづくりの推進」事業の一環として、女子サッカー関連事業を掲載

[教育・スポーツ・文化②] 令和2年度 事業評価シート

基本情報									
事業コード・事業名	総振	3309	女子スポーツ支援事業						
関連計画コード	倍增	—	成長	3—1	総合戦略	21202	—	再掲	—

施策情報				
分野・節	教育・文化・スポーツの分野 健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現			
目指す方向性	「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに関わることができる機会を増やすとともに、まちづくりの広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進し			
成果指標	指標項目	平成25年度	令和2年度	令和2年度(目標)
	本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合	44.7%	26.7%	60%
施策展開	スポーツを活用した総合的なまちづくり			
	—			

Plan(計画)					
事業課 (左上欄・とりまとめ課)	スポーツ振興課	—	—	—	—
事業の対象	市内女子中学生等				
事業の目的	女子スポーツの競技力向上を図ること				
事業の内容	①市内女子中学生を対象に、プロ・アマトップスポーツチーム等の選手・コーチ等から指導を受けられる機会を提供する、ステップアップセミナーの開催 ②女子中学生年代を対象とした女子サッカー大会「SAITAMA GIRLS MATCH」の開催				
令和2年度の取組内容 (計画時点)	①ステップアップセミナーの開催 ②SAITAMA GIRLS MATCHの開催				
令和2年度	当初予算額(円)【前年度繰越額を含む】	割合	決算額(円)【翌年度繰越額を除く】	割合	
事業費<A>	2,350,000	100%	0	0%	
財源内訳	一般財源	2,350,000	100.0%	0	0.0%
	国・県支出金	0	0.0%	0	0.0%
	地方債	0	0.0%	0	0.0%
	その他特定財源	0	0.0%	0	0.0%
事業に関連する民間資金	SAITAMA GIRLS MATCHは市の補助金のほか、民間企業の協賛金で実施しています				
概算人件費(円) 	※人工 (0.08 人) × 職員1人当たりの人件費		670,720		
総コスト(円) <A+B>			670,720		

Do(結果)						
令和2年度の事業の達成度	C コロナ影響有	令和2年度の取組実績 (未実施・未達成の目標指標がある場合はその要因分析)	【実績】①ステップアップセミナー 未開催 ②SAITAMA GIRLS MATCH 未開催 【未実施・未達成の目標指標】 ①ステップアップセミナーの実施については複数のスポーツチームと調整を図りましたが、新型コロナウイルスの影響により実施に至りませんでした。 ②SAITAMAGIRLSMATCHについては、令和2年5月の実施予定で調整を図りましたが、新型コロナウイルスの影響により実施に至りませんでした。			
事業としての目標指標	達成度	分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(評価年度)
① ステップアップセミナー参加者数	C	目標		100人	100人	100人
	コロナ影響有	実績	取組内容の検討	155人	68人	未実施
		改定情報		—	—	—
② 「SAITAMA GIRLS MATCH」参加チーム数	C	目標		10チーム	16チーム	32チーム
	コロナ影響有	実績	8チーム	12チーム	15チーム	未実施
		改定情報		—	—	—

③ 「SAITAMA GIRLS MATCH」参加者数	C	目標	250人	400人	1,000人
	コロナ影響有	実績	242人	471人	1,948人
		改定情報	—	—	—

Check(評価)			
事業を取り巻く外部要因の変化	定量的変化	—	
	定性的変化	JFAによる「女子サッカーデー」に関する取組みなど、女子サッカーに対する環境づくりが行われる一方、市内の女子中学生のサッカー環境の受け皿は充分な状況ではなく、一層の支援が求められています。	
前年度に計画したAction(改善)に対する取組結果	計画内容	②③SAITAMA GIRLS MATCHIについて、さいたま市サッカー協会と連携し、より魅力的な大会を目指すとともに、広域に大会を周知し、目標参加チーム数、参加人数の達成を目指します。	
	取組結果	目標チーム数を達成するため、主管となるさいたま市サッカー協会と議論を重ねていましたが、新型コロナウイルスの影響により事業中止をせざるを得なくなり、参加募集に至りませんでした。	
事業の項目別評価	評価区分	評価理由	
	①組織連携・PPP・協働 (事業を進めるうえで、他課、他団体、市民等と連携しているか)	I 連携している II 取組が不足している I	ステップアップセミナーについてはプロスポーツチームと、SAITAMA GIRLS MATCHIについてはさいたま市サッカー協会とそれぞれ連携しています。
	②効率性 (事業の費用対効果を高めるための取組を行っているか)	I 取組を行っている II 取組が不足している I	SAITAMA GIRLS MATCHが予算内でより魅力的な大会となるよう、大会運営のノウハウを持つさいたま市サッカー協会を通じ、大会の趣旨に賛同いただける企業等から大会への協賛をいただいています。
	③広報・周知活動等の結果 (事業を知ってもらうための広報、営業活動等により対象者にアプローチできているか)	I アプローチできている II アプローチが不足している I	ステップアップセミナーについては対象となる競技の市内クラブチームや部活動の指導者を通じ参加者を募り、事業の対象者に効率的に周知しています。SAITAMA GIRLS MATCHIについては、さいたま市サッカー協会を通じ、開催規模に応じ、近隣市だけでなく、関東圏を中心とした広域に大会を周知し、参加チームを募っています。
施策(成果指標)への貢献度 事業の取組内容がどのように施策(成果指標)に寄与しているか	評価区分	評価理由	
	I 貢献している II 一定程度貢献している I	女子スポーツの競技力向上を図るなど女子スポーツの普及を推進することは、本市のスポーツ振興及びスポーツに関する市民意識の醸成を図ることにつながり、本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の増加に寄与すると考えます。	

Action(改善)		
改善内容と事業の方向性	改善する項目	改善内容
	① 組織連携・PPP・協働 ② 効率性 ③ 広報・周知活動等の結果	SAITAMA GIRLS MATCHIについて、さいたま市サッカー協会や市内WEリーグ所属チームと連携し、より魅力的な大会を目指します。
	②③	改善理由 女子プロサッカーリーグWEリーグが発足し、市内のWEリーグ所属チームの下部チーム等の大会参画を図ることにより、大会価値を高めることへの契機となるため。
事業の方向性		
SAITAMA GIRLS MATCHIについて、当面の間、現行の実施体制で安定的に事業実施が可能なチーム数(20チーム程度)で実施することとし、今後は大会知名度の向上を図り、全国から強豪チーム等が集まる魅力的な大会を目指していきます。		

総合振興計画 後期実施計画(計画期間:平成30年度~令和2年度)の実施状況に対する評価				
計画期間の事業の達成度	最終目標	実績	達成度	
B	目標指標①	令和2年度までの3年間の累計で300人	令和2年度までの3年間の累計で223人	C コロナ影響有
	目標指標②	令和2年度までに32チーム	15チーム(令和元年度)	C コロナ影響有
	目標指標③	令和2年度までに1,000人	1,948人(令和元年度)	A
	目標指標④	—	—	—
	目標指標⑤	—	—	—
	目標指標⑥	—	—	—

施策	健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現
十 目指す 方向性	「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに関わることができる機会を増やすとともに、まちづくりの広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進します。

成果指標

本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合

事業	女子スポーツ支援事業
-----------	------------

主な論点

現状のスポーツ実施率の傾向を踏まえた今後の方向性（女子の競技力向上から世代別・男女の差に着目したアプローチへの転換）に関する課題や進め方について
 ※新計画（令和3年度～）では、当該事業を個別に位置付けていないが、「サッカーのまちづくりの推進」事業の一環として、女子サッカー関連事業を掲載

	① 現状認識	② 目的・対象の設定	③ 取組	④ 成果指標への貢献度
事業の プロフィール	<p>〔従来〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国的に女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、特に20～40代の女性の実施率が低い。 ○中学生の女子の約20%が「スポーツが嫌い」「やや嫌い」と答えている。 ○男性よりも女性のほうが「スポーツが盛んなまち」というイメージをもつ割合が低い。 <p style="text-align: center; color: #0070c0; font-size: 2em;">↓</p> <p>〔新たな方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国的に若年世代の男女のスポーツ実施率の差は縮小している。 ○市民アンケートの調査分析では、市内在住者のスポーツ実施率は、30～40代が低い傾向が全国と変わらないが、同世代の男女差は全国調査に比べ少ない。 	<p>〔従来〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツを実施している女子中学生を対象として競技力の向上に資する取組を行うことによる女性の継続的なスポーツ実施を支援 <p style="text-align: center; color: #0070c0; font-size: 2em;">↓</p> <p>〔新たな方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ実施率が最も低く、家庭や仕事等で忙しく、スポーツする時間が取りにくい世代でもある30～40代に寄与するような、世代別アプローチの検討・実施 ○世代別アプローチに加え、男女の身体的特徴の差に着目したアプローチとして、特に若年世代の女性の健康課題に着目したスポーツ促進策を検討。 	<p>〔従来〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若年世代の女性の競技力向上に資する取組として、以下を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップセミナー（市内女子中学生等を対象に選手・コーチ等から直接指導を受けられる機会として開催） ・SAITAMA GIRLS MATCH（市内外のクラブチーム、市内外の中学校部活動・合同部活動チームの参加する女子中学生年代のサッカー大会を開催） <p style="text-align: center; color: #0070c0; font-size: 2em;">↓</p> <p>〔新たな方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世代別アプローチとして以下の例の取組を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・親子が身近で手軽にスポーツを体験できるアーバンスポーツを普及促進し、新たなスポーツ実施層を獲得 ・時間のない働き手世代にとって負担感のないスポーツやフィジカルケアの実施 ・雰囲気、ファッションといったスポーツ以外の付加価値の提供による参加意欲の向上 ○男女の身体的特徴の差に着目したアプローチとして、以下の取組を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・月経や骨粗しょう症などの女性特有の課題に対するサポートプログラムの実施 	<p>〔従来〕</p> <p>中学生年代の女子にアプローチする施策は、幅広い世代において低い水準にある女性のスポーツ実施率向上に、長期的な視点で一定の効果はあると考える。また、プロアスリート・スタッフ等との交流や指導を受けることにより、将来的なスポーツ業界への参画の動機づけとして一定の効果はあると考える。</p>
(観点) →	(現状分析、ニーズ把握)	(事業の方向づけ)	(取組内容、PR、連携・協働、効率化、その他の工夫)	—
問題点				(事業群の回で実施) ※個々の事業が成果指標や目指す方向性に向かっているかどうかについては、①～③の枠へ分類
解決策				(事業群の回で実施) ※個々の事業が成果指標や目指す方向性に向かっているかどうかについては、①～③の枠へ分類